



## 確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ子どもの育成 ～読みの力を身に付ける指導の工夫を通して～

大館市立桂城小学校 教諭 中井みどり  
教諭 金圭子  
教諭 岡部賢哉

### 1 はじめに

本校児童は、文章の内容や構造を理解したり、書き手の意図を推論したりしながら読むことが苦手である。国語科で確かな読みの力を身に付けることが、各教科の確かな学力の形成に深く関わると考え、上記主題・副題を設定して研究を行ってきた。

### 2 確かな読みの力を身に付ける指導

#### (1) 付けたい読みの力の明確化と言語活動の工夫

##### ① 付けたい読みの力の重点化と適切な言語活動の設定

確かな読みの力を身に付けるためには、付けたい読みの力（指導事項）を重点化し、それにふさわしい言語活動を選択して、単元を貫いて位置付けることが重要である。

##### ② 単元を貫く言語活動の設定

設定した言語活動に関わる学習は単元全てで行う。（単元を貫く言語活動～下表参照）

##### ③ 現行指導要領の趣旨を生かした単元構成

「言語活動の充実に関する指導事例集（文部科学省発行を参考）」を基に、次のように考えた。

第1次～単元に対する興味関心や単元全体の見通し・めあてをもたせる。

第2次～設定した言語活動が自力でできるように教科書教材を使って指導する。

第3次～第2次での学習を生かし、個が選択した他の教材に取り組ませる。

#### 2年生の例 音読劇をしよう

重点指導事項	人物の行動を中心に想像を広げながら読む（読むことウ）
言語活動	「音読劇」
第1次	学習のめあてをもつ 「ともだちシリーズを読んで、好きなお話の音読劇をしよう」
第2次	音読劇をするために、人物の行動を中心に想像を広げながら「お手紙」を読み、一単位時間の中で、実際に音読や動作の練習をやってみる。
第3次	好きなお話の音読劇を練習し、発表をする。

#### (2) 国語科における一単位時間の学習スタイルや学習の手引き作り

##### ① 一単位時間の学習スタイル作り

単元を貫く言語活動を一単位時間の中にどのように組み込むかは、まだ試行錯誤の段階であるが、次の取組は効果的であった。

**実践例** 3年生 文章の組み立てを考えて物語を書こう「三年とうげ」

**付けたい力** ◎物語の組み立てをとらえ、登場人物の気持ちの変化や情景を想像しながら読む。

◎段落の役割を理解し、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。

**言語活動** 物語を書く。

**一単位時間の主な学習活動**

ねらい：「変化」の場面がどのように書かれているか読み取り、自作物語の組み立てメモに書くことができる。

学 習 活 動	導入	・前時までの活動を振り返り、本時の課題を確認する。 「変化」の場面はどのように書けばよいのだろうか。
	展開①	・「3年とうげ」（教科書本文）の「変化」の場面の新たな登場人物や中心人物の心情の変化、場面の特徴などを読み取る。 ・「変化」場面の書き方をまとめる。
	展開②	・読み取ったことを生かして、自分の「物語組み立てメモ」に「出来事の変化」を書く。
	まとめ	・本時の振り返りをし、次時の確認をする。

※本単元は読むことと書くことの複合単元として設定した。物語の文章構成の特徴を知るため、場面ごとの読み取りを行った。子どもたちは一単位時間の中で主体的に物語を読み、物語の構成の特徴をとらえて自作物語のメモを書くことができた。

② 読みの手引き作り

物語文と説明文の学習の仕方を学団ごとにまとめ、教室に掲示したり、個々の子どもに配付したりした。



(3) ねらいに適した練り合いの工夫

① 教師はコーディネーター役

○色々な考えが出てきたとき、出された考えや意見を整理したり関連付けたりした。

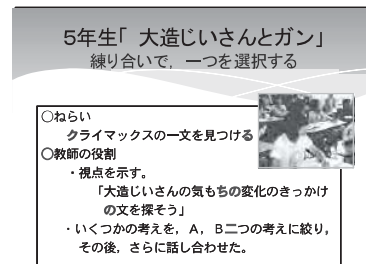
○子どもがなかなか問題点に気付かなかったり、話し合いが紛糾したりしている時には新たな視点や思考の道筋を示した。

② 個に意見を持たせる工夫

自分の考えをまとめる時間を確保したり、机間指導で助言をしたりした。

③ 形態の工夫

ねらいに応じて、ペアやグループ、全体と集団の人数を変えたり、コの字型を活用したりした。



3 終わりに

現行の学習指導要領では、言語活動の工夫と充実が謳われている。付けたい力にふさわしい言語活動を設定することができたとき、子どもたちはめあてや見通しをもって意欲的に学び、指導事項を確実に身に付けることができた。また、練り合いの際も目が輝き、学び合いとしても充実していた。評価や一単位時間の在り方など、課題も多々あるが、これからも一層研究に励んでいきたい。